

10年先も持続可能な社会を ～JAと地域力で未来を変える～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ESDシリーズ SDGsって何？

最近新聞やテレビなどで「SDGs」の言葉をよく耳にしないうる。か。

SDGsとは全世界から貧困をなくし、持続可能な環境・社会・経済を持続可能な環境・社会・経済へ変革する事である。変革という言い方をしているのは、今までの仕組みを組みかえて全く新しいものにするという意味を持たせるためであり、国連がこれを策定した。

SDGsは環境と社会、経済を改善する為に17の目標を掲げ、その中には169の具体的な内容があり、その目標が達成できたか確認する為に232の指標がある。17の目標は一つ一つが独立したものでなく、一体となっている目標である。

環境・社会・経済の問題とは

現在、私たちは集中豪雨や地震などの自然災害、戦争やテロ、貧困、新型コロナウイルスや鳥インフルエンザなどといった感染症等、数多くの危機に直面している。

地球温暖化を例に挙げると、少なくとも2030年までに気温上昇を1.5度以内に抑えることが出来なければ、温暖化を加速させる現象が次々と連鎖し、2100年には灼熱地球へと動き始める可能性がある。と最新の研究で明らかになっている。

社会に目を向けると、女性の社会進出、医療体制の整備、子どもたちの教育、健康等の生活基盤に必要な問題がある。中でも、現在も進行している新型コロナウイルスによる医療体制の圧迫や感染者への差別や偏見、衛生面から使い捨て可能なプラスチックごみの増加等の問題を日本は抱えている。コロナ禍一つにしてもこれほどまでも問題が生まれている反面これらの問題を解決しようとする関心が高まる人も増えているようだ。



様々な職種で雇用創出



2100年の予想した日本の天気予報

経済面では働きがいのある社会実現や災害に対する環境整備、SNSなどによる差別的な言動、食品ロスの増加などといった問題がある。

中でも食品ロス問題は私たちの生活そのものを見直す動きが求められている。日本において食べられるのに捨てられる量は、年間612万トン（2017年推計値）となっており、毎日大型トラック（10トン車）約1676台分の食品を廃棄している。この問題の改善策として規格外品の再利用や生鮮食品の冷凍保存などといった取組がすでに行われており、さらに取組む人口の増加が必要とされている。これらの環境・社会・経済の3つの主要素で大きな問題が生じている。

環境・社会・経済の3つはバランスが重要であり、経済界のトップらは基盤となる環境の改善に取組み始めている。

また、全国各地のJAでも既に取組んでいるところが多い。そこで今回は当JAのどんな取組みがSDGsに繋がっているのか3つの柱に沿って紹介していきたい。

1. 土台となる「環境」

社会も経済も、人類をふくむ生物が生きていける環境があって成り立っている。また、陸の豊かさは海の豊かさにつながり、陸の保全是水資源の保全にもなる。

そこでJAでの水資源の保全につながる取組として廃プラスチック回収がある。不当に廃棄されたプラスチックは、紫外線や外的要因により5ミリ程度のマイクロプラスチックとなり海洋を汚染させる。廃プラ回収はこの問題を防ぐことに繋がり、焼却処分による温室効果ガス発生抑制、リサイクル意識の強化へ取組む事が出来る。

また、水の豊かさを保つ事や連作障害防止の為に土壌診断も当JAで行っている。現在では化学肥料の普及が広がっているが、雨などの影響で農地から流出し、生活排水や下水へと流れ、水質汚染に繋がる。

そこで、土壌診断により適正な成分の施肥を行う事で、水に溶けだした過剰な化学肥料が水質を汚染することを防げる。

また、適正な土壌での作物栽培

は問題なく連作することができ、持続可能な農業へと繋がる。

このように、自然や生態系を守ることににより農作物や水、自然等が豊かなものとなり、農作物も豊富になり社会から飢餓や貧困が減少し、働く人が増えるなどといった恩恵を受ける事が出来る。

<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p> 
<p>15 陸の豊かさを守ろう</p> 	<p>14 海の豊かさを守ろう</p> 



適正な土壌診断で豊富な作物を（目標6・14・15に該当）



廃プラ回収の為に分別に取組む生産者（目標6・14に該当）

2・世界から飢えや貧困をなくし健康で安全に住み続けられる「社会」を築こう

当JAでは、近年の気温上昇に伴い農作物への障害がみられ、生産者は頭を抱えている。

そこで当JAでは気候変動に応じた品種への転換や選果基準の見直しを今年から行っている。果実への障害を栽培管理の新たな設定により防ぎ、農業者の所得向上または農業生産の拡大へ繋がることにつなげていく。また、生産者の経営内容に応じた栽培方法の提案なども進めていく。

また、地域産業の理解と教養を深める為、毎年行っている相馬小学校の児童へのリンゴ学習活動や保育所の野菜定植支援活動により、農作物を育てる事の大切さを知ってもらえればと考えている。

そして、農業者の急な病気やケガ、生活習慣病が原因で仕事や生活に支障が出た場合にサポートする為の保障サービスを提供している。毎日の農作業が忙しい生産者に安心して生活してもらう為に、当JA担当者が畑などの現場へ足を運び、保障サービスの提案

を行っている。これらの継続した取り組みは地域の人達に根付き、持続可能な取組として確立してきていると言えるだろう。



適正な営農指導を現場で行う（目標1・2・3に該当）



毎年行われている食育活動（目標4・11・16に該当）

3・人や国の不平等を無くし、誰もが生きがい、働きがいを感じられる経済実現のために技術革新を進めよう

現在、農業人口の減少や後継者不足による廃業が問題となっている。その背景には農業者の高齢化や肉体労働のイメージが強い事、農業所得の不安定が懸念されている事等が要因となっている。

そこで当JAでは、労働力不足による農作業の省力化を目的に、ドローンや無人ヘリコプターを使った肥料農薬散布等が行われている。まだ水稲が中心であるが、これらの機械による作業が増えることにより作業の省力化や若い年代の働き手が増え、雇用の創出にも繋がる。

同時に、アップルヘルパー等の農作業の働き口を探している人と、人手不足で困っている人をマッチングさせる無料職業紹介事業も行っており、これまでも多くのマッチングにより生産者を支えている。今では更に農業者と求職者のマッチング率を向上させるため、派遣会社との連携等を見据えている。



スマート農業で若者の雇用創出と人手不足解消（目標8・9に該当）



SDGsとJA

SDGsと聞いて、世界的な取組であることから壮大なイメージがある。しかし、身近な生活には多くのSDGs関連があることを理解して頂けたらろう。

これまで紹介したように、JAではすでにSDGsに関する取組を行っている。

しかし、なぜこのようにSDGsに関連した取り組みがJAで行われているのか。それはJAの基本理念である相互扶助という理念から来ている。どの取り組みも一人は万人のために、万人は一人のために」という考えが根付いていることから多くの取組が生まれている。

また、これまでの紹介してきた食品や環境保全、労働環境等の取組は当JAの農産物信頼システムの「GAPのチェックリスト」に記されている。よって、このチェックリストを確認することはSDGsの取組をチェックする事と類似している。

GAPの農場管理や食品安全、

環境保全、労働環境整備等といった取組がSDGsの17の目標の大部分に当てはまる。よってGAPの内容に沿った営農の実践がSDGsの取組に繋がり、GAPの認証、取得へ近づけることが出来る。

世界には、様々な環境問題からの影響により快適な生活を送ることが出来ない人が多くいる。その地球環境を改善することが出来るのはあなたです。まずは無理なく出来る事から取り組んでみませんか。



意外と簡単！
生活の中で取り組めるSDGs

レベル1 ソファに居ても出来る取組

- ・オンライン決済で紙の無駄を省く
- ・SNSの地球に関する投稿は「いいね」ではなく「シェア」して呼びかけを行う。

レベル2 家でも出来る事

- ・肉や魚などの生ものは冷凍して廃棄する物を減らす。
- ・エアコンなどは窓などの隙間を減らしてエネルギーの効率を良くする。

レベル3 家の外で出来る事

- ・地元で採れたものを意識して買い物し、地産地消を応援する。
- ・詰め替えボトルや買い物バックを持ち歩いて無駄な資源を出さない。

レベル4 職場で出来る事

- ・園地にトイレを設置し、環境を整える。
- ・適正な農薬使用を守る。
- ・省力可能な品種や天候に合った品種更新を行う。

これはごく一部の取組である。自分の興味のあることから意識して取り組んでみましょう。